

三鷹「学び」のスタンダード(学校版)

「三鷹市学習到達度調査」と「全国学力・学習状況調査」の結果から、小学校第6学年・中学校第3学年段階で学力の高い子どもたちが共通して身に付けている学習習慣が明らかになりました。これらの学習習慣は子どもたちの確かな学びを支えていると考えられます。

学校での指導を通して望ましい学習習慣を身に付けさせるという視点から、このリーフレットの指導アイデア例を参考に取り組み、授業の充実と子どもたちの学力向上につなげていきましょう。

学校で身に付けさせる学習習慣

指導の工夫

学習習慣 1

先生の話を集中して聞き、大事なと思ったことは、黒板に書かれなくてもノートに書く。

学力調査の結果から

成績上位層には、この習慣を身に付けている子どもが20%ほど多い。(％は最大値、以下同じ)

指導アイデア例

- 板書だけではなく、「大事なこと」「気付いたこと」「学習のまとめ」「振り返り」などを記入できるノートの構成を指導する。
- ワークシートも児童・生徒自身の気付きなどを記入できる欄を設けるなどの工夫をする。

学習習慣 2

授業中に自分の考えを述べたり、他者の発言を集中して聞いたりする。

学力調査の結果から

話し合いをよく行っている子どもたちの正答率は小学校で25ポイント、中学校で18ポイントほど高く、授業中に意見を発表する機会がある子どもほど正答率が高い。

指導アイデア例

- 発問した後は、子どもたちが自分の考えをまとめる時間を必ず保障する。
- ペアや4人組などで考えたことを伝え合う時間を取り入れる。
- 発言を聞く際のルールを取り決める。
- 「聴写」を取り入れたたり、他者の発言を聞いた後の学習活動をあらかじめ設定するなど、「聞く」ことの動機付けを図る。

学習習慣 3

考えたり調べたりしたことを文章にまとめる。

学力調査の結果から

自分の考えを説明したり書いたりすることに慣れている子どもたちの正答率は小学校で23ポイント、中学校で10ポイントほど高い。

指導アイデア例

- 児童・生徒がじっくりと考えたり、調べたりできる学習課題を設定する。
- 考える時間、調べる時間を保障する。
- 「意見→理由→例」「意見→理由①→理由②…」などの文章の書き方を指導する。
- 宿題も含めて200字程度の意見文を書く機会を数多く与える。

学習習慣 4

分からないことはそのままにせず、自分でも調べたり考えたりする。

学力調査の結果から

家で復習をしている子どもたちの正答率は小学校で10ポイント、中学校で7ポイントほど高く、成績上位層にはこの習慣を身に付けている子どもが12%以上多い。

指導アイデア例

- 「間違い直しノート」を用意させてテスト問題のやり直しをさせるなど、間違いを放置しない事後課題を与える。
- 授業の振り返りの際に疑問点や理解できなかった点を明らかにさせて、家庭で復習に取り組みめるような課題や資料・ワークシート等を与える。

学習習慣 5

家庭学習は、いつ・何を・どんな方法で勉強するのか、自分自身で決めて取り組む。

学力調査の結果から

塾や家庭教師だけに頼るのではなく、自分で計画を立てて勉強している子どもの正答率は小学校で23ポイント、中学校で14ポイントほど高い。なお、学習時間(塾など含む)が1日3時間前後の子ども(小6、中3)の正答率が最も高い。

指導アイデア例

- 帰りの学活などの際、宿題等を確認するとともに、自宅ですべてどのように取り組むのか、予定を立てさせる。
- 効果的な学習の方法について教師が具体的な例を示す。
- 家庭学習の取り組みが継続的に確認できるような「自学ノート」を用意させる。

学習習慣 6

学習内容の要点を自分自身で考えながら学習に取り組む。

学力調査の結果から

成績上位層には、教科書の内容の要点を考えたり、テストに出そうなポイントを考えたりしながら、重点的に学習している子どもが24%ほど多い。

指導アイデア例

- 余白のあるノート構成を指導し、「キーワード」を書き出したり「要点」を書き込んだりする宿題を与える。
- 教科書や授業ノートを基に要点を整理するなど、自学自習の方法を身に付けさせる。
- 家庭学習用のノート、定期テスト対策用のサブノート等の活用の仕方を教える。

(平成25年度に実施した「全国学力・学習状況調査」「三鷹市学習到達度調査」に基づいています)

学習習慣の定着と授業改善のために

- 習慣1～3は、授業の中で日常的に行われるような工夫が必要です。子どもたちが自分の気付きや自他の意見・考えを大切にできる態度を育むとともに、それを言語化して伝え合う時間を保障することがカギになります。
- 習慣4～6は、学習課題を工夫するとともに、取り組み方についても学校で具体的に指導・助言する必要があります。
- ◎ 6つの学習習慣の定着に向けて学園・学校全体で取り組む共通実践を設定するとともに、発達段階や教科の特性に応じて指導計画に具体的に位置付けることが大切です。

学習習慣を定着させるためには、指導アイデア例のような工夫を一時的に取り入れるのではなく、繰り返し継続して指導することが大切です。それは授業改善や指導力向上にもつながります。